

# 登山月報



御嶽山



BJC



IFSC表彰



ナンガ・バルバット



第11回ボルダリングジャパンカップ開催	2
ユース強化合宿報告	3
IFSC総会においてJMAが表彰	4
第88回Mountain World	6
<b>新連載</b> 「山の日」制定記念—ふるさとの山に登ろう—	7
平成27年度氷雪技術研修会、主任検定員養成講習会、上級指導員養成講習会報告（鳥取県大山）	8
平成27年度登攀技術研修会、主任検定員養成講習会、上級指導員養成講習会報告	9
平成27年度ジュニア・普及情報交換会報告	10
映画「エヴェレスト 神々の山嶺」全国公開中	11
平成27年度代表者会議報告	12
JMA、寄贈図書、編集後記	13



埼玉県加須市でのボルダリングジャパンカップ開催は、2回目(2006年)となる。今回スポーツクライミングがオリンピック競技種目の候補となり、前回とは違った注目のなかの開催となった。4月に同市(加須)で予定されているボルダリングワールドカップを意識し、2つの戦いがつながるというコンセプトで準備に取り組んだ。壁をワールドカップ仕様へ、そして決勝は生放送によるテレビ中継が行われた。

競技は、女子55名、男子93名の選手がエントリー。どちらともA、Bの2グループに分かれての予選。

女子予選では野中、野口がすべての課題を完登。実力通りの登りで準決勝進出。ただし野口は準決勝で万全な体調ではないのか苦しみながらの3位で決勝へ。逆に、加島が全課題完登の1位通過で今年も何か起きるのかという雰囲気会場に流れた。その野口は決勝1課題目を失敗するが、2課題目(写真2)からが違った。ハングの下のハリボテに乗りハング下のホールドからハング出口の上にあるホールドをラウンジ気味に取り、上のハリボテを繋げて行くまでのムーブは途切れることなく、いつもの野口であった。アテンプト1の完登。3課題目もアテンプト2で一人だけの完登。2年ぶり10度目の優勝を決めた。調子が悪いながら、女王の気迫とパフォーマンスに会場が沸いた。逆に、全課題ボーナスをとり安定した登りを見せた野中だったが、完登のアテンプト数で3位。加島が2位となる。結果から見ると実力が迫ってきているなか、アテンプト少なく完登できる能力はもちろんだが、自己の能力を最大限に発揮するための精神的コントロールも重要になってきていると感じた大会であった。

一方男子もその様相はさらに強かった。男子は、Aグループで藤脇(3完登)、Bグループで緒方(5完登)が1位通過。準決勝では杉本が全課題完登の1位通過。さすが去年の覇者という登りであった。決勝進出のボーダーラインは2完登。9名が並びアテンプト数が少なくボーナスが多い藤井と堀が残った。そして、予選1位通過の2名が残らないという実力伯仲の戦国時代。決勝では、そのぎりぎり通過の藤井が3完登で優勝。第3課題までは山内がリードしていたが、第4

課題のハリボテに飛びつくムーブをアテンプト2で成功した藤井が逆転。ムーブがマッチした時の登りは確実で、さすが世界ランクの登りと感じた。男子は毎年優勝者が変わるが、実力伯仲の状況を見るとまだまだそれは続くだろう。



多くのメディアが来場(ENG)



女子優勝 野口啓代選手



男子優勝 藤井 快選手

そして、クライミング競技ではセッターの役目はさらに重要性を増してくるだろう。

3頁上の図は、セッターの作業図。決勝のレイアウトだ。各選手の得意、不得意はあるだろうが公平になるよう、セッター陣の苦勞の跡が見える。それでも男子の第2課題のように完登0、ボーナス0も出てきてしまう。この競技の難しさを改めて感じる。

運営面では、開会式において国旗儀礼、国歌独唱(クライミング競技では初めて)を行い、決勝ではBGM



を消しました。それらは、オリンピックをにらんでの試みでした。暗闇にスポットライトで浮かび上がる選手と声援だけの世界は重厚で神聖な感じを醸し出していましたが、盛り上がる部分では難しさを感じ、賛否両論いろいろご意見を頂きました。IFSCとしては、BGMはあるべきものとしての意見が強く、4月のワールドカップ加須では行う予定です。もちろん他の演出も含めて盛り上げたいと思っています。

今回、準決勝・決勝では入場料2,000円を頂きました。SNSのコメントを見ると高いとの意見も多く、BJCとしては高めの感ありでスタート。TVの生中継も影響したか売り上げは伸びませんでした。当初の想定(400枚)を大きく下回った。ただ、31日に当日券として現地で販売を実施。94枚が売れた。その多くは、地元の市民であり、クライミング競技の認知が上がってきていると感じました。中には、決勝の競技が半分以上進行している状況でありましたが入場したいというお客様もいらっしゃったようです。

一方、マスコミ関係は、20数社取材に来ていたが、テレビ放映は一般のニュースを除くとスポーツ関係の4番組のみ。各番組とも数十秒から180秒ほどの取り扱い。そして新聞は2社のみ。ロゴ露出、大会の様子は報道で多く取り上げられたが、競技(結果)についてはほとんど触れられておらず、五輪追加種目、有力選手(野口)が主になっている状況。もっと認知度を上げるためにマスコミへのコミュニケーションなど展



開が必要と感じました。ただ、今までのと比較し取り上げられた数にはるかに多く一定の成果は上げられたと判断しています。(博報堂担当者コメント一部引用)

あと2か月半でワールドカップの開催を迎えます。多くの課題が山積しますが、選手、観客、主催者、開催地にとって良き大会であり、2020年オリンピック競技につながる第一歩の役目としてその重みを感じながら取り組みたいと考えております。BJC 2016実行委員会は、今日(2月12日)からBWC 2016 KAZOの実行委員会となりました。スタッフ、関係者の皆様よろしくお願い致します。

最後に、ご協賛頂きました「キョーリン製薬ホールディングス株式会社」様、「マムートスポーツグループジャパン」様、「牛乳石鹸」様、「オリエンタルバイオ株式会社」様にこの場を借りて改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

(BJC 2016実行委員会副実行委員長 村岡正己)

### 【リザルト】

女子			
		完登	ボーナス
優勝	野口 啓代	T2(At.3)	B3(At.4)
2位	加島 智子	T1(At.2)	B2(At.8)
3位	野中 生萌	T1(At.4)	B4(At.10)
男子			
		完登	ボーナス
優勝	藤井 快	T3(At.7)	B3(At.7)
2位	杉本 怜	T3(At.11)	B3(At.10)
3位	山内 誠	T2(At.3)	B3(At.8)



表彰式

## ユース強化合宿報告

2016年1月4日～11日まで、イタリアのトリノでユース合宿を行った。これは、過去5回の海外合宿(2014、2012、2010、2008、2007)および海外講師やルートセッターを招待しての国内合宿(2015、2011)に次ぐ合宿となる。これまでの合宿では、海外慣れしていない選手に対して、選手自身がどのような環境でも実力を存分に発揮できるように「海外サイズのホールドの距離感に慣れる」、「国際経験を積んでもらう」、「他国の選手と積極的にコミュニケーションをとれるようになる」といったことが大きな目的だったが、今回は、東京オリンピック2020で実施される可能性が高い複合競技(ボルダリング・リード・スピード)への対応をにらみ、「スピード種目への強化対策」として、イタリアのスピード専門コーチによる指導といったプログラムも盛り込んだ。さらに、今回はイタリア代表だけでなく、フランス代表チームからも合宿に加わりたいという要望があり、日本チームが他国から注目されていることも窺えた。

合宿が始まるまで、各国のチームのスタッフや選手の数が分からない状況だったが、ふたを開けてみると日本から19名、イタリアから21名、フランスから20名の選手が参加し、スタッフ等の数を合わせると、およそ総勢100名という大規模の合同合宿となった。

会場は「ボルダリング」と「リード&スピード」に分かれており、予想以上に移動に時間を要したことや、3ヶ国合同での合宿であったため、当初予定していたトレーニングプログラムから変更せざるを得なかったりと、多少の問題点はあったものの、様々なコーチたちのノウハウを選手たちに伝えることができたり、他国の選手たちが積極的にコミュニケーションをとれたり、3ヶ国のコーチ陣で意見交換ができたりと、非常に有意義な時間をもつことができた。

特に、スピード種目への取り組みに関しては、フラン



ス・イタリア両国の専門コーチからレクチャーを受け、様々なノウハウを学ぶことができた。その甲斐あってか、日本チームは初めてスピード種目に触れる選手がほとんどの中、最初は20～30秒かかっていた選手が、たった3日間で、2～3年かかるであろうと思われた8秒台を4名もたたき出した。このことは、オリンピックに向けて非常に大きな前進であり、スピードにおいても日本選手の可能性を感じられた。

合宿後半の2日間はオリンピックの複合種目を視野に入れ、3ヶ国合同で3種目の模擬コンペを行った。その際に、現地のセッターを数名サポートにつけてもらったおかげで、質の高いコンペ形式でのトレーニングをスムーズに行うことができた。そして、今回は現役でワールドカップ(WC)等の国際大会の最前線で戦っている大人の代表選手2人(杉本怜選手と藤井快選手)も合宿に参加してもらい、ユースA以上の男子6名は、大人の選手と合同でメニューをこなした。

当初は上手くいくか不安だったものの、想像以上にユースの選手も強く、模擬コンペの時には、大人の代表選手さらには他国の世界ユースで活躍していた強豪のユース選手たちにもプレッシャーを与えるほどだった。また、杉本選手には、昨年の世界ユース大会に引き続き、今回もサポートスタッフとして加わってもらったが、普段から実施しているウォーミングアップの方法を実践してもらったり、大会での気持ちのコントロール、目標設定等、自身がユースの頃から現在に至るまでのことを振り返って話をしてもらった。このように、第一線で活躍している大人の代表選手が混ざることによって、ユース選手の良い目標や刺激となり、大変良い機会となった。



さらに、今回はユース世代の選手たちがなかなか接する機会の少ない、ヨーロッパのWC等で日本チームのサポートをしてくれているドイツ在住のベニー・ハートマンにも来てもらい、トレーニングのサポートに加え、国際大会でパフォーマンスを発揮するために意識することや、ドイツ式のトレーニングの方法論等を講義と実技で紹介してもらった。

以上のように、今回は3ヶ国合同、総勢100名、様々なスタッフや選手が関わることで、非常にボリュームがあり、充実した濃い内容の合宿となった。この合宿で吸収したことを、日々のトレーニングや大会の場で活かし、心身ともにレベルアップした今後の彼らの活躍に期待したい。

## 【会場】

- ボルダリング：S.A.S.P  
<http://www.arrampicata.com/dove-siamo-sasptorino-arrampicata.html>
- リード&スピード：Centro Arrampicata Torino  
<http://www.centroarrampicatatorino.org/>

## 【メンバー】

スタッフ6名(小日向、西谷、木村、安井、鈴木、ベニー)  
 参加選手19名(男子9名、女子10名)  
 杉本怜、緒方良行、原田海、中上太斗、大高伽弥、河上紘輝、土肥圭太、西田秀聖  
 大場美和、高田こころ、錦織美里、小島果琳、中村真緒、樋口結花、森秋彩、伊藤ふたば、菊地咲希

(文：西谷善子 写真提供：ベニー・ハートマン、安井博志)

## IFSC総会においてJMAが表彰

2016年2月20日 イラン・テヘランで開催された 国際スポーツクライミング連盟(IFSC)総会において、(公社)日本山岳協会(JMA)はIFSCよりゴールデンメンバーと国別ランキングの2つの表彰を受けました。



JMA\_Goldenmember\_screen

### IFSCゴールデンメンバー

2015年における、JMAのIFSCに対しての、特に2020東京五輪対応等における多大な貢献が評価されました。通常IFSCゴールデンメンバーは、最低でも5000ユーロ(約65万円/2016年2月為替 1ユーロ@130円)以上の財政的な貢献を行ったNFが表彰されます。2015のゴールデンメンバーは、JMA(日本)のほかに、FFME(フランス)・FASI(イタリア)・CMA(中国)が表彰されました。



JMA\_Goldmember 表彰  
 JMA、CMA、FFME、FASI、IFSCマルコ会長(左から)

### 2015年IFSC国別ランキング3位

2014年に引き続き、2015年もIFSC国別ランキングで日本は3位を獲得しました。

1位はフランス、2位はロシア。スピード競技での実績がほぼないにも関わらずランキング上位を維持しているのは、ボルダーとリードの活躍と選手層の厚さによるもの。

報告：小日向徹(選手強化委員長)  
 写真：安井博志(選手強化委員)



JMA\_国別ランク3位表彰  
 JMA、FFME、CFR(左から)

## 第88回 Mountain World

### ナンガ・パルバット冬季初登頂成る

池田常道

冬のナンガはついに登られた。1988 / 89年のポーランド隊による本格挑戦以来27シーズンにわたって挑戦を退けてきたナンガ・パルバット(8126m)が2月26日、その頂を明け渡した。スペインのアレハンドロ(アレックス)・チコン、イタリアのシモーネ・モーロ、パキスタンのムハンマド・アリ・サドパラがC4から頂上を往復したもの。チコンとサドパラは前年7850mまで迫りながら涙を呑んだ無念を晴らした。これで、冬季未踏の8000m峰はK2(8611m)を残すばかりとなった。

今季のナンガ・パルバットには、1月号で紹介したように、南面ルパル側から2隊、西面ディアミール側から4隊が挑んで冬季一番乗りを競った。

ルパル側からは、マレク・クロノフスキのポーランド隊が南西稜を試み、1月中にマゼノ・ギャップに到達、7300mまで迫った。そのころ、アメリカ女性クレオ・ワイドリッチ(52)がシェルパ3人をつれてやってきた。ルートが出来上がったところを見計らって漁夫の利を狙ったともいえる。なにしろ8000mコレクターとして知られる彼女はシェルパとのコンビで出沒し、これまでに10座を登ったと主張している。が、そのうち2座は疑われ、他の2座も登頂していなかったというのが登山界の公式見解になっている。あいにく、入れ替わるようにポーランド隊が撤収、シェルパも2人が離脱し、断念を余儀なくされた。彼女がどこまで登ったかは不明である。

一方ディアミール側では、トマシュ・マツキエヴィッチ(ポーランド)とエリザベート・ルヴォル(フランス)が、前年と同じ北峰I北西壁から1月22日に7400mに達して引き返した。2人の挑戦はこれで終わり、ルヴォルは帰国してしまった。

西壁62年ルートに挑んでいたダニエーレ・ナルディとアレックス・チコン、アリ・サドパラは1月中に何度か攻撃を試みたが、強風や天候悪化でいずれも敗退。2月になってナルディが帰国(これは金銭トラブルによるものらしい。両者はそれぞれのホームページで非難合戦を繰り広げた)。ポーランドのアダム・ビエリツキとヤーツェク・チェフは、C1(4800m)、C

2(6100m)とキャンプを進めたが、5800m付近を荷揚げ中にビエリツキが転落、これで続行を諦めた。ナルディの帰国後、北峰I北西壁を試みていたモーロとルンガーは、ルートが危険になったためチコンらに合流した。

待望の好天がくるという予報を得た4人は2月22日にBC(4000m)を出発、頂上攻撃に踏み切った。BCでの待機が長引いたため、チコンとサドパラは6700m、モーロとルンガーは6100mまでしか経験していなかったが、初日に一気にC2入り、3日後には7200mにC4を設けて翌日頂上に向かった。前日から体調のよくなかったルンガーは途中で諦めたが、残る3人は午後3時37分(現地時間)頂上に立った。

モーロにとっては、シシャパンマ、マカルー、ガッシャブルムII峰に続く4座目の冬季8000mの頂となり、3座で並走していた冬季黄金時代のポーランド勢(イェジ・ククチカ、クシストフ・ヴィエリツキ、マチェイ・ベルベカ)を抜いて最多登頂者となった。



上/ナンガ・パルバットの頂上ピラミッドとC3およびC4の位置。下/最後まで粘った4人(BCで)。左からチコン、モーロ、サドパラ、ルンガー。2点ともシモーネ・モーロ提供

# 「山の日」制定記念

—ふるさとの山を登ろう—

岐阜県・御嶽山(2,811m)

岐阜県の「ふるさとの山」は、美濃の奥深い山から飛騨山脈まで山なみが続き、富山・長野との県境は高い稜線となっています。

あえて「ふるさとの山を登ろう」と声かけしたい山は、御嶽山飛騨頂上(2,811m)です。

御嶽山では平成26年9月27日の噴火により、多くの登山者が犠牲となりました。心から哀悼の意を表する次第です。噴火後、立ち入り規制がなされていましたが、平成27年6月26日気象庁より警戒レベル3から警戒レベル2に引き下げられ、同年10月8日岐阜県側の規制範囲は御嶽山火口から1kmとなり、濁河温泉から入山し、五の池小屋、飛騨頂上、摩利支天山まで、立ち入りが可能となりました。

濁河温泉から3時間半で御嶽山飛騨頂上まで登ることが出来、大パノラマを満喫することが出来ます。

濁河温泉登山口から御嶽山飛騨頂上まで1,000mの標高差ですが、登山道は整備されていて、森林限界を越えるとガレ岩が多くなりますが、眺望が開けます。五の池小屋も、規制緩和後営業しています。(ただし五の池小屋、冬期は閉鎖。小屋営業シーズンの登山がおす



下呂市写真ライブラリーより

すめ。)

摩利支天山(2,959m)まで立入可能ですが、ゆっくりと飛騨頂上周辺で山頂ムードを楽しむのがおすすめです。大パノラマに加え、季節によりお花畑や高山植物が見られ、散策を楽しめます。

下山後は、日本の名湯「濁河温泉」(鉄分を含んだ茶色の湯)で芯まで温まり疲れを癒すことが出来ます。(年中、日帰り入浴可能)

冬期は、濁河温泉まで冬タイヤ装備が必要で、登山も森林限界を越えると風が強く雪面が凍ったり下山ルートを間違えたりするので、相応の冬山技術と装備が必要です。

御嶽山火口から4キロ以内へ入山するので、県条例により登山届が必要です。

岐阜県警あて電子メールで提出するか濁河温泉登山口ポストへ提出しましょう。(記 岐阜県山岳連盟)

# スポーツ安全保険®



誠くん

千春ちゃん

スポーツ安全協会

検索

インターネットからも加入受付を行っております。詳しくは、ホームページをご覧ください。

**公益財団法人 スポーツ安全協会**

〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-11 西新橋光和ビル8階 TEL03-5510-0022

保険の詳細内容、資料の請求は、ホームページをご覧ください。

<http://www.sportsanzen.org>

●資料請求は、インターネットより受付けております。



携帯電話から  
資料請求ができます。

## 平成 27 年度氷雪技術研修会、主任検定員養成講習会、上級指導員養成講習会報告 (鳥取県大山)

平成 28 年 2 月 20 日 (土) ~ 21 日 (日) に鳥取県大山において氷雪技術研修会および主任検定員養成講習会、上級指導員養成講習会が大山自然歴史館および大山南光河原にて開催された。

今回は研修 15 名、A 級主任検定員 3 名、上級指導員養成講習 1 名、講師 5 名、鳥取県スタッフ 3 名の計 27 名での開催となった。

今年の大山は異常なほど雪が少なく研修場所にも苦勞した。しかも初日は季節外れの雨。やむなく屋内での机上研修とロープワークを実施した。翌日は晴れて野外での研修がなんとか実施できた。

以下に参加者代表の感想を掲載します。

(記 指導常任委員 野村善弥)

### 受講生 感想

研修会 1 日目は急速に発達する低気圧の影響で全国的に雨模様の中、大山も激しい雨が止まず、大山自然歴史館の館内での講習と実技講習になった。開会行事に続いて、氷雪技術全般についての机上講習を瀧本指導委員長、野村常任委員が行ない、プロジェクターで動画の映像も交えわかり易い内容だった。また、「ヒトココ」の紹介もあり、軽量で安価(ビーコンに比べて)、電池寿命が約 3 ヶ月もあり、上空から 5 km の範囲を受信できるなど、子供や老人の見守り以外に山での行方不明者の捜索に有効であること、レンタル制度や、ドローンと組み合わせて使う実験などの紹介があり、興味深い内容だった。続いて、切嶋常任委員から S A B (スタンディングアックスビレイ) の理論と注意点などの説明と実技の指導を受けた。実技の手順は①スタンディングアックスビレイで滑落者を肩がらみで制動確保する。②ハーネスにロープを仮固定して、両手



を自由にする。③体勢をつぶされないように胸を張りながらしゃがみこむ。④荷重をプルーチックで支点に移して荷重から解放する。⑤メインロープを支点のカラビナにムンターヒッチとミュールノット(または中通し)で固定する。

以上の一連の流れを、研修者はハーネスを装着してビレーヤーと滑落者を交代しながら、繰り返し練習した。室内で安定した場所ながら、慣れないロープワークや窮屈な姿勢にあちらこちらからうめき声や時には笑い声も聞こえる実技講習だった。一方、上級指導員養成と主任検定員養成は指導員制度についての机上講習を行なった。1 日目のカリキュラムを終了すると、宿舎の「大山館」に移動し、暖かい鍋を囲み、今日の反省や各地の情報交換など活発な懇親会となった。

2 日目は天候が回復し青空に無風、たまに雪がちらつく程度の最高の研修会日和となった。宿舎から身支度を整えて南光河原の駐車場に移動した。一般登山者が登山口に向かうのを横目で見ながら、雪の斜面を整地し、支点の構築や滑落停止訓練、そして S A B の実技を行なった。前日に室内で練習したおかげで、比較的スムーズに実践できる研修者が多かった。上級指導員養成と主任検定員養成は S A B の指導法を中心に実技を行った。

実技講習・実技検定後は大山自然歴史館に移動し、閉会行事を行ない、2 日間の研修会を無事終了した。指導委員会の講師の方々、主管の鳥取県山岳協会の皆様に感謝します。

講師：「ピッケルは何の道具ですか?」、研修生「バランスをとる道具です。」「歩行の杖です。」「カッティング、台風姿勢・・・」講師：「ピッケルは登攀の道具です。」アルパインクライミングの指導員であることを改めて自覚した一幕だった。これからも研鑽に励みたい。

(記 宮崎県山岳連盟理事長 下村真一)



## 平成 27 年度登攀技術研修会、主任検定員養成講習会、上級指導員養成講習会報告

平成 27 年 11 月 21 日(土)～22 日(日)に神奈川県立山岳スポーツセンタークライミングウォールにおいて登攀技術研修会および主任検定員養成講習会、上級指導員養成講習会が開催された。

今回は研修 3 名、A 級主任検定員 3 名、B 級主任検定員 1 名、上級指導員養成講習 10 名、講師 5 名、神奈川県スタッフ 2 名の計 24 名での開催となった。また、スタッフの神奈川県山岳連盟の方々には、おいしい手作りの懇親会を開いていただき、その他にも多大なご協力をいただきました。改めて感謝申し上げます。

以下に参加者代表の感想を掲載します。

(記 指導委員 常任委員 野村善弥)

### 受講生 感想

山岳会に入会してから学んだ様々な知識や技術はあくまで自分の登りたい山や岩に向かっていましたが、今回講習会を受講させていただく機会を得、自分の技術の未熟さだけでなく、道具の活かし方や選び方、自己脱出から救助の流れ、高所登山での医療やリーダーとしての役割などを学ぶことができました。特に講師の先生方はプロのガイドを含め、指導経験豊富な方々でしたので、実際の現場で求められるスピードや技術・判断について、緊張感のある雰囲気の中で学ぶことができ、とても良かったです。

また、講習会では他の山岳会の方々とも交流することができました。まだ見ぬ山々の話はとても魅力的でした。いつかどこか山の上で再びお会いできることを願っています。

講習会を終え、学んだ知識や技術を山岳会の仲間や周囲の友人と共有することも大切なことであり、また私自身も技術を磨き続ける努力が必要だと感じました。カラビナー一つにしても形状や使うタイミングなど、用途

に合わせ素早く正確に使うためには、日ごろの練習はもとより、道具の形が意味するものを調べ、理解することも安全性を高めるうえで必要であると学びました。

上級指導員養成講習会に参加し、技術を知っているだけでは駄目だということを強く感じました。自分の山だけでなく、一緒に登る仲間やこれから始めようとする人たちとともに安全に山を楽しむためにも、正しい知識と技術を伝えられる指導員になりたいと改めて感じる講習会でした。

(記 静岡県・富士宮山岳会 高野慎一郎)



極楽のエベレストを  
制した究極の肌着!!

想像をはるかに超える“保温力”

# 超肌着力

ブルガリアで登山&ハイキング三昧、素晴らしい田舎の魅力に触れる旅

## ブルガリアの名峰3座登頂と 小さな村 10日間

発着地 東京 旅行代金 ¥448,000

出発日 6/30(木)・7/7(木)・7/14(木)・7/28(木)・9/1(木)

※燃油サーチャージ(2016年2月15日現在:目安約17,000円~23,000円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボンド保証会員

**ALPINE TOUR SERVICE 株式会社**

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911  
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557  
e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

## 平成27年度ジュニア・普及情報交換会報告

平成27年度ジュニア・普及情報交換会が、2月13日(土) Bumb東京スポーツ文化館にて開催された。昨年は、国立オリンピック記念青少年総合センターにてこの情報交換会を実施したが、今年度は場所が変更したにも関わらず全国から総勢21名のご参加をいただいた。

最初に八木原罔明会長から挨拶を頂き、日山協が公益社団法人となって3年目を終えようとしている。ジュニア・普及委員会は「公益」事業の中でも重要な安全登山の普及と青少年の育成を担っている。今年度、各地で展開された活動を学ぶとともに、有意義な意見交換をしていただきたいと述べた。また、スポーツクライミングが、オリンピック種目候補として挙げられていることでこれから益々の普及・育成に力を注いでいかなければならないと力強い言葉を頂いた。

### I 「山歩き&登山体験(リード壁・ボルダリング)をしよう！」

山口県山岳連盟 理事長 古林喜明氏

小学校1年生～中学校3年生とその保護者という指導の対象で登山教室を開催した。目的にもあるように、陶ヶ岳・火の山登山活動を通して自然の雄大さを知り、自然を大切にすることを育むと共に、頂上まで歩いた喜びの達成感を親子で感じることできた。

また、スポーツクライミング体験では、高校生や大学生も指導の手伝いに来ており幅広い世代の人達が同じクライミングウォールを登ることで一体感が生まれた。これにより参加している生徒達は、高校生や大学生を憧れるようになり相乗効果でスポーツクライミング人口が増えてきている。現在スポーツクライミングで活躍している山口県出身者が多い理由は個々にあると考えられる。

### II 「行こう火の山 守ろう自然 — 子供自然環境体験教室 in 那須」

H A T - J 本木總子氏

日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト(H A T - J)という団体は、日本山岳協会・日本山岳会・日本ヒマラヤ協会・日本勤労者山岳連盟の支援の下に田部井淳子氏が立ち上げた山岳環境保護の団体である。

那須岳の山麓を活動場所として、①山の自然の中で



のびのび遊んで、自然の爽やかさを体験する。②山の植物や、動物、火山、岩石を観察して自然の仕組みと環境保護について考える。③思いやりの気持ちを持ってルールを守り、いろいろな地域から集まった友達と仲良く楽しい共同生活をする。この3つを目的として沢歩き、那須岳登山、カレー作りお楽しみ会を実施した。

参加した当初は、お互いが距離を置いていたが、同じ行動・作業をすることによってすぐに距離が縮み昔からの友人であるかの様に生活をする様になった。このような活動を各岳連の諸行事運営等に役立てていただければと考える。

### III 「日本山岳遺産基金の活動」について

日本山岳遺産基金 湯浅陽介氏

「美しい山を次世代に」の言葉をもとに山と渓谷社が創業80周年を記念して創設した基金である。活動は、大きく3つに分けており、「山岳環境保全」「次世代育成」「安全登山啓発」である。これまでの日本山岳遺産の認定地は、北は北海道の夕張岳から南は九州熊本県の九州中央山地五家荘エリアまでの全国16カ所である。当基金の目的に沿った活動をしている団体に支援(助成金の拠出・各種活動の広報支援)をしている。たとえば「登山家・田部井淳子さんとの共同プロジェクト「被災した東北の高校生を日本一の富士山へ」の報告や、ゴミ拾い、マナーアップを登山口で呼びかける「マナーアップチャレンジ」を実施するなどである。また、長野県鉾ノ峰(大町高等学校山岳部)、徳本峠(古道徳本峠道を守る人々)の活動団体の紹介があった。

## Ⅳ 「みんな集まれ！ジュニア登山教室 in 立山 2015」 「なすかし雪遊び隊」、他

日本山岳協会登山部長 西内博氏

### 1. 「ジュニア登山教室 in 立山」

国立立山青少年自然の家で8月16日(日)～19日(水)に3泊4日で実施した。

参加者は、例年と違いお盆の時期になったこともあり、14名と募集人員より大幅に少なかった。登山教室の内容は、立山カルデラの学習、スポーツクライミング、立山登山、地域の歴史などを学習した。

### 2. 「なすかし雪遊び隊」

那須甲子少年自然の家で3月に1泊2日で実施し、子供達が大好きな雪遊びを思う存分楽しんだ。内容としてソリや、雪洞体験、スノーシューを使用した雪のハイキングなどである。そして冬越しの植物観察など行った。

### 3. ジュニア登山教室の問題点

・参加者の伸び悩み・日山協主催のため委員会に負荷がかかる・登山教室の実施が委員会のミッション・登山におけるジュニア登山者の養成システムの構築が急

務・委員会の負荷を減らすか、委員会を増強するか対策が必要・委員会の増強は難しく、高体連登山部出身委員のあて職で次々交代する問題もある・ジュニア登山教室の主管を岳連、協会またはブロック単位でお願いしたい・日山協の予算をそのまま移管したい・平成29年度から実施を希望するブロック単位で子どもを集め、場所によっては東京からも参加。

### 4. ジュニア登山者の養成

①小学校：自然体験活動+ジュニア登山教室自然保護委員会と共同で推進)

②中学校：山岳部活動+ジュニア登山教室

③高等学校：山岳部活動+顧問対象登山教室

報告会後の懇親会には20名のご出席をいただき、各岳連(協会)で実践されている青少年育成事業の話題で大いに盛り上がった。来年度は、場所を国立オリンピック記念青少年総合センターに戻し、「少年少女登山教室」をはじめとする多くのスポーツクライミングや自然体験活動が各岳連(協会)で開催されることを切望する。

(記 中瀬和徳)

## 映画「エヴェレスト 神々の山嶺」 全国公開中

夢枕獏作「神々の山嶺」が映画化されました。今年の3月、ケアンズのゴラクシェップ周辺で、4月初旬はカトマンズ市内で撮影しましたが、帰国直後にあのネパールの大地震が発生しました。

日本では4月から6月頃まで宝剣岳、三つ峠、冷凍倉庫、東京の街で撮影し、やっと公開にこぎつけました。私自身は「山岳監修」として2013年と14年にロケハンに行き、15年の撮影と20年越しでした。

山岳関係者は他に飛田和夫、岩崎洋、横山勝丘、昨秋チャムラン単独登山中に行方不明になった今井健司、川原庸照、吉田智美と女医の末田南。国内では多くのクライマーたちに手伝ってもらいました。

物語は1924年のマロリー達が登頂前に遭難したか、登頂後なのかのカギを握るカメラの発見をめぐるストーリーで、エヴェレスト南西壁を冬季・単独・無酸素で挑む羽生丈二は、グランドジョラスで1980(昭和55)年2月に転落死してしまう森田勝氏がモデルである。

役者は強い。付き人やスタッフの方がいろいろ出ました。岡田准一さんは武術3派の師範格。阿部寛さんは最近では「下町ロケット」の大ヒット。尾野真千子さんは近くで見ても美人だが、男のよう。



岩崎洋は「俺たちが関わっているのに、インチキは嫌だ」と装備や所作までかなり細かいところまでこだわった。横山の指導よろしきを得て、阿部さんのザイルを巻くシーンなど様になっています。ぜひ見てください。

ここ数年外国のヒマラヤなどを舞台の映画が数本あり、全て観ましたが身内のひいき目でなく、迫力のある映画に仕上がっています。安心してご覧ください。

群馬の高校総体予選や全国総体などで話すことがあるが、初心者である高校山岳部員にはいつも「山に関わる全てのことに興味を持って欲しい」と言っています。まずは「登る」から始まりますが、植物でも動物でも山に関わるもの、写真、山の本(コミックでも)、歌、音楽に『映画』とどん欲に幅広く吸収してほしいと思う。大人の皆さん方もぜひどうぞ。(会長 八木原罔明)

## 平成27年度代表者会議報告

平成27年度代表者会議が2月14日(日)に岸記念体育会館で開催された。会議には正会員団体代表者44名、役員・委員長23名が出席した。

会議に先立ち、八木原会長から「今年は、祝日『山の日』の施行とスポーツクライミングの五輪種目化が決まるでしょう。これらの機会を活かして登山が盛んになり、遭難事故が減るようになれば良い。昨日、海外登山技術研究会に顔を出したら大盛況であった。内容が良ければ人は集まる。皆さんが日山協なので、是非一緒に行動していきましょう。」と挨拶。

次いで、八木原会長を議長として会議日程に入った。

まず、各理事から下記報告事項について説明が行われた。

### (1) 平成27年度事業経過報告について

小野寺事務局長より資料に基づき報告があった。

### (2) 平成27年度会計中間報告について

相良理事より資料に基づき1月31日までの会計報告があった。

### (3) 平成28年度事業計画(案)について

小野寺事務局長より資料に基づき事業計画案について説明された。JOCジュニアオリンピックカップの日程に一部齟齬があり、後日訂正された。

### (4) 平成28年度収支予算(案)について

相良理事より資料に基づき前年比で6,700万円アップの総額206,550千円の収支予算案が説明された。

### (5) 平成27年度共済会事業経過報告について

### (6) 平成28年度共済会事業計画(案)及び収支予算(案)について

上記2件について尾形専務理事より資料に基づき説明された。

### (7) 祝日「山の日」記念事業について

尾形専務理事より資料に基づき記念事業について説明された。

### (8) 会長諮問委員会の設置について

小野寺事務局長より資料に基づきこれまでに開催された3回の諮問委員会の報告があった。

### (9) その他

- 新ビル(岸記念体育会館)移転計画について小野寺事務局長より資料に基づき新ビル建設計画(2017年夏着工、2019年春竣工)と移転スケジュールについて説明された。

### ●HPのリニューアルについて

瀧本常務理事より資料に基づきリニューアル案について説明された。

主な質疑・意見・要望は、以下の通り。

#### 1. スポーツクライミングの五輪種目化について

大々的に周知できるようなキャッチフレーズを展開してほしい。山岳協会とスポーツクライミングの名称がしっくりいかない。協会の名称変更は考えられているのか。

#### 2. ブロック大会の助成金について

28年度もルートセッター委託費の助成金は、予算化されているのか。助成金の名称としては、施設整備費としたほうが望ましい。

#### 3. 安定財源の確保について

予算書を見ると会費収入が、8.1%しかない。事業収益ばかりでなく、収入の4分の1くらいは固定収入が必要ではないか。

#### 4. 安全登山実践基礎講座の委託開催について

参加費が開催県によってまちまちだが、参加費は開催県で決めて良いのか。

テキストは開催県独自のものを使って良いのか、それとも日山協のものを使うのか、それにしても日山協のテキストは内容が浅いように思われる。

#### 5. 祝日「山の日」記念事業について

主催について日山協に拘ると労山やJAC支部と一緒にやろうとしている県では、支障がでる。

#### 6. 全日本登山大会について

具体的な運営指示がなくて困った。後催県に対して指示書を出して貰いたい。

#### 7. 登山月報のHP掲出について

登山月報の最新号をHPにアップするようにしてもらいたい。

#### 8. HPのリニューアルについて

海外向け英文ページには、日本の山の状況をよく説明して入れてもらいたい。

以上

(記 尾形好雄)

### IFSCクライミング(ボルダリング)WC 2016 加須大会開催!!

期 日	2016年4月23日(土) 予選 4月24日(日) 準決勝・決勝
会 場	埼玉県・加須市民体育館
交 通	東武伊勢崎線「加須」駅下車徒歩20分
チケット	各プレイガイドで販売



平成27年度2月(28年2月)  
常務理事会報告

日時 平成28年2月5日(金)  
18時～21時10分

場所 岸記念体育会館会議室  
出席者 八木原会長、尾形・國松・高橋・  
亀山各副会長、小野寺、西内、仙石、森  
下、京オ、水島、瀧本、中瀬各常務理事、  
中嶋監事

## 1. 議事

- (1)平成27年度1月常務理事会・連絡部会議事録の承認について(事前送付済)  
事前に配布しており異議なく承認された。
- (2)平成27年代表者会議次第について  
提案通り承認された。
- (3)平成27年度事業経過報告(代表者会議)について  
小野寺事務局長より資料に基づいて説明があった。総括の項において、財政についての考察も入れるようにと監事の進言があった。他行事日程、参加者数に一部訂正があった。
- (4)平成28年度事業計画(案)(代表者会議)について  
小野寺事務局長より資料に基づいて説明があった。次回から「代表者会議」を「全国理事長会議」に改めることなど、何点か訂正があった。
- (5)平成28年度事業予算(案)について  
尾形副会長から説明があった。予算の特記事項として、不確定要因のことも入れておくように監事の進言があった。また、予算作成の説明文も必要との監事の指摘があった。
- (6)国体山岳競技開催基準要項の一部改定について  
審議については、次回の常務理事会において再提案することになった。
- (7)クライミングルートセッター規程の一部訂正について  
森下競技部長より(義務)第4条公認ルートセッターを競技ルートセッターに訂正することが諮られ、承認された。
- (8)指導規約改定案について  
瀧本指導委員長より提案があり、提案通り了承された、但し、議案文言に不備があり、文言は再提出となる。
- (9)U A A A - 合同遠征の参加者承認について  
坂上光恵、飯田千枝子、工藤紀代、鷲山久の4名が異議なく承認された。
- (10)UIAA-Youth Global Summitの参加承認について  
林健太朗の派遣が、承認されたが、学校の承認確認もすることになった。
- (11)台湾山岳協会90周年記念高山派遣承認について  
岩崎洋、川原庸照、楠田寧、西嶋鍊太郎、高島加代子の5名とも異議なく承認された。
- (12)報告事項  
ア 平成27年度1月度会計月次報告  
小野寺事務局長より説明があった。一部、事業に入れるべき処理が管理に入っており、訂正が必要となる。  
イ 全日本パラクライミング選手権大会

- 結果報告  
森下競技部長より資料に基づいて説明があった。
- ウ 第11回B J C大会報告  
森下競技部長より資料に基づいて説明があった。
- エ レスキュー講習会報告  
西内登山部長より報告があった。講師の年齢が受講者に比べて高いとのことであった。
- オ スポーツクライミング2016キックオフ記者発表報告  
森下競技部長より資料に基づいて説明があった。
- カ 日本選手権/コース選手権リード競技大会・実行委員会報告  
森下競技部長より、特に無いとのことであった。
- キ アイスクライミング視察報告  
森下競技部長より説明があった。但し、会計処理については事前の提案が必要との意見があった。
- ク 和歌山国体申し送り事項報告  
森下競技部長より資料に基づいて説明があった。
- ケ ゴールデンキッズ発掘プロジェクト参加報告  
森下競技部長より資料に基づいて説明があった。
- サ 岸記念体育会館について  
日体協・J O Cの新ビル構想についての説明と現ビル取り壊しの説明及び移転が2019年春頃になるとの説明があった。
- シ 山岳共済会・27年度報告  
尾形副会長・専務理事より資料に基づき説明があった。
- ス 平成28年度山岳共済会事業計画及び予算について  
尾形副会長・専務理事より資料に基づき説明があった。
- セ 京都府岳連より「全日大会」要望書別途詳細を代表者会議で確認することになった。
- ソ HPのリニューアルについて  
瀧本常務理事より資料に基づいて説明があった。

## 2. 後援報告、協賛等の依頼について

- (1)日本学生S C個人選手権における後援名義の使用について
- (2)東丹沢トレイルレース後援名義使用について
- (3)第32回リードジャパンカップ開催承諾書について
- (4)日本・イラン・ダマバンド山友好登山後援名義使用について
- (5)環境省自然公園指導員表彰候補者推薦
- (6)日本山岳ガイド協会 百万人の山と自然「安全のための知識と技術公開講座」後援名義について  
上記(1)～(6)については、提案通り異議なく承認された。

## 3. 報告

- (1)A C指導員  
(千葉県：1名)望月綾乃  
(福島県：6名)椎原寿明、遠藤寛和、富岡寛之、国府田悦子、高松あけみ、加藤充彦  
(岐阜県：10名)中村直樹、加藤克行、田中幸男、鍛次英光、横山英明、今峰正利、鈴木寛人、桜田治三郎、藤岡義猛、高崎陽介  
(石川県：2名)前川陽、樽矢導章

- (東京都：4名)塚田尊明、岸正夫、玉田嘉紀、出江俊夫  
(宮城県：3名)櫻井洋一、鈴木健浩、長谷川哲(山形)
- (2)S C指導員  
(静岡開催：11/28-29、12/5-6)  
中村光孝、山田紗弓、岩田幸裕、伊藤裕貴、水口 僚(岐阜)、戸越信吾(鹿児島)、神保不折(石川)、福家茂樹  
以上、提案通り承認された。

## 4. 専門委員会動静(1月8日～2月4日)【報告】

- (1)指導委員会 2月1日(月) 出席12名 委任3名  
ア スポーツクライミングのピクトグラム(指導者カードのマーク)について  
イ)S Cコーチ養成講習会について  
6月24、25、26日 机上講習  
7月16、17、18 実技講習  
ウ)規約改訂について  
S Cコーチ受講資格  
エ)氷雪技術研修会について
- (2)デジタル情報委員会 1月14日(木) 参加者5名、委任2名  
ア)HPリニューアル(案)について
- (3)国際委員会 1月19日(火) 参加者12名 委任2名  
ア)国内WCM(北海道上ホロカメットク山にて3/19-21で開催予定)について  
イ)台湾C T A A 2016 Touch of Taiwan  
ウ)海外登山懇談会(マイク・リベッキ講演会)会計報告  
エ)第54回海外登山技術研究会(2/13(日)PM-14(日)AM オリセン)について  
オ)来年度の事業計画、予算案について  
カ)ロシア女性クライミングフェスティバルについて  
キ)2016年度の総会兼海登研について  
6月11、12日 京都府立ゼミナールハウス  
ク)国内外に向けてのHP案について
- (4)自然保護委員会 1月16日(木) 出席14名  
ア)山岳団体自然環境連絡会報告・12月27日(於：労山) 松隈が参加  
イ)来年度計画日程の確定について  
ウ)H 27年度出前講座の実施について  
エ)高校生の自然保護指導員任用について  
オ)常任研修会の実施について  
カ)伊吹山問題のその後について  
キ)シンポジウム「箱根、丹沢、富士山、伊豆半島におけるニホンジカ対策の現状の開催について」(主催：環境省、2月13日(土)神奈川県立生命の星・地球博物館内 S E I S A ミュージアムシアター)  
ク)フォーラム「ライチョウを通して見る日本の自然環境」(主催：H A T - J、2月13日(土)、オリンピック記念青少年総合センター) ケ)山のトイレを考える会について  
コ)外国人登山者に対する協力(指導)呼びかけが言語的な問題  
サ)乗鞍岳でのライチョウ抱卵時期における春スキー規制遵守の呼び掛け
- (5)競技部・運営委員会 1月15日(金) 出席者19名 委任4名  
ア)28年度事業計画・予算(案)について  
イ)第11回B J Cについて  
ウ)日本選手権兼全日本クライミングコース選手権リード競技大会2016「マムートカップ」実施要項について

- エ) 公認競技会等の競技会基準と認定手順の策定について
- オ) 28年度競技部委員総会について
- カ) 全国高校クライミング選抜選手権大会について
- ・参加都道府県 42都道府県、参加校 123校
- キ) 日本パラクライミング選手権大会報告について
- ク) ブロック別研修会実施要項、講師選任について(注: AD アンチドーピング研修)
- (6)ジュニア・普及委員会 1月14日(木) 出席5名、
- ア) ジュニア・普及情報交換会について・2/13(土)15時~18時 B u m B ぶんぶ東京スポーツ文化館
- イ) なすかし雪遊び隊2016について
- ウ) 中高年安全登山指導者講習会引継ぎ会議報告
- ・中高年安全登山指導者講習会共通テーマ「読図」
- 講師依頼 : 村越真氏(静岡大学教授)、北村憲彦氏(名古屋工業大学教授)
- (7)遭難対策委員会 1月31日(日)
- ア) レスキュー講習会の反省
- イ) 平成28年度事業計画について
- (8)指導・競技合同 1月25日(木) 出席5名
- ア) 平成28年度のコーチ養成講習会について
- ・コーチの受講資格について
- ・日程・会場について

- 机上講習 6月24、25、26日 都岳連会議室にて
- 実技講習 7月16、17、18日 第一候補: 明治大学 第二候補: 昭島 第三候補: 東久留米
- ・受講料について(32,400円)
- イ) SC主任検定員養成講習会について
- ウ) SCの五輪種目化に関わる選手の所属について
- エ) 今後のスポーツクライミング指導者を増やすことを考えると、現在のやり方では限度がある。指導委員会の中にスポーツクライミング専門部を作るとか、競技委員会の中に指導部を作るとか、検討する必要がある。

5. 日誌 (1月1日~2月1日)

- (1)国立登山研修所専門調査委員会 1月7日(木) 於: 日本スポーツ振興センター 尾形副会長
- (2)「山の日」協議会・運営委員会 1月8日(金) 於: 日本山岳ガイド協会 尾形副会長
- (3)全日本パラクライミング選手権大会 1月10日(日) 於: 明大和泉キャンパス 森下常務理事、西原、山本各委員長
- (4)マチュアスポーツ新春懇親会 1月13日(水) 於: NHK 八木原会長、尾形副会長
- (5)第三回会長諮問委員会 1月15日(金) 於: 岸記念体育会館 尾形副会長、小野寺事務局長、森下競技部長
- (6)顧問・参与会 1月16日(土) 於: アル

- カディア市ヶ谷 八木原会長、他
- (7)新春懇談会 1月16日(土) 於: アルカディア市ヶ谷 八木原会長、他
- (8)中高年安全登山指導者講習会引継ぎ会議 1月17日(日) 於: アルカディア市ヶ谷 尾形副会長、仙石・瀧本常務理事
- (9)第65回日本スポーツ賞表彰式 1月18日(月) 於: ホテルニューオータニ 尾形副会長、小野寺常務理事
- (10)IFSCマルコ会長他来日 1月19日(火)~22日(金) 八木原会長、尾形専務理事、小野寺事務局長、森下競技部長、小日向委員長
- (11)東京五輪競技施設会議 1月20日(水) 於: 組織委員会・会場 小日向委員長
- (12)平成28年度予算ヒアリング 1月19日(火)、22日(金) 於: 岸記念体育会館 尾形副会長、小野寺事務局長、各委員長、相良財政委員長
- (13)スポーツクライミング2016キックオフ記者会見 1月26日(火) 於: 岸記念体育会館 八木原会長、尾形副会長、森下部長、山本委員長
- (14)印西市長表敬 1月28日(木) 於: 印西市役所 八木原会長、森下常務理事
- (15)レスキュー講習会 1月29日(金)~31日(日) 於: 土合山の家周辺 西内部長他
- (16)東京都山岳連盟新春の集い 1月30日(土) 於: 東京グランドホテル 八木原会長
- (17)第11回ボルダリング・ジャパンカップ 1月30日(土)~31日(日) 於: 加須市民体育館 八木原会長、尾形副会長、森下競技部長、山本、小日向、西原各委員長
- (18)平成28年度予算決裁会議 2月1日(日) 於: 岸記念体育会館 八木原会長、尾形・國松・高橋・亀山副会長、小野寺事務局長
- (19)平成27年度山岳遭難対策中央協議会幹事会(第3回)開催 2月3日(水) 於: 文科省16階 西内登山部長、中川事務局長

寄贈図書

寄贈本	ナカニシヤ出版	「ヒマラヤの東山岳地図帳」中村保著
	日本山岳画協会 杉山 修	創立80周年記念画文集「山に魅せられた画家達」
	山と溪谷社	「山の神さま・仏さま面白くてためになる山の神仏の話」太田昭彦著
	山と溪谷社	「日本の火山 国内30の火山活動を検証する」山と溪谷社編
	(株)ネイチチュアエンタープライズ	「岳人」No.825 2016年3月号
	山と溪谷社	「山と溪谷」No.970 2016年3月号
	La rivista del Ciub alpino italiano	「Montagne360」febraio2016
	「岳翔」作成委員会	「岳翔 富山県警察山岳警備隊発足50周年記念号」Vol.10
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」2016.2.10 No.316
	群馬県山岳連盟	「山岳ぐんま」第106号
雑誌	(公財)日本体育協会	「フェアプレイニュース・スポーツニュース」2月15日号
	埼玉県山岳連盟	「埼玉岳連」53号
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」2016年3月号 No.493
	モンベル	「OUTWARD」No.70
	(一財)日本防火・防災協会	「地域防災」No.6 2016-2
	Korea Alpine Federation	「大山聯」Vol. 206
	東京野歩路会	「山嶺」No.1032
	高校生新聞社	「高校生新聞」3/1~4/9 第234号
	東京都山岳連盟	「都岳連通信」2015年度 第3号
	(公社)日本山岳会	「山」2016年2月号 No.849
会報	やまびこ山想会	「やまびこ」第163号
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第416号
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会」第430号
	横浜山岳会	「月刊山」1995号
	福岡山の会	「せふり」No.373
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.675
	中国登山協会	「山野CHINA OUTDOOR」2016.02 総210期

編集後記

啓蟄も過ぎ春らしい陽光になってきた。昨年開催された全国「山の日」フォーラム実施報告書を頂いた。概略来場者は18000人好評であったようだ。国土の約7割が山地の日本では官民共同でないと全体の健康診断は困難であると思う。JMAはその組織力と経験で情報収集・発信窓口の開設や、山岳における独自の巡視制度を模索してはどうだろうか。

(広報担当 水島彰治)

登山月報 第564号

定価 110円(送料別)  
 予約年間 1,300円(送料共)  
 昭和45年12月12日  
 第三種郵便物認可  
 (毎月1回15日発行)  
 発行日 平成28年3月15日  
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1  
 岸記念体育会館内  
 公益社団法人日本山岳協会  
 電話 03-3481-2396  
 F A X 03-3481-2395

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL: 090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL: 042-787-2276

和田峠「峠の茶屋」 TEL: 042-687-2882

ユージンロッジ安全管理 TEL: 042-687-4011

理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター

神奈川県相模原市緑区小淵1545-1

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- ・北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- ・陣馬山トレイルレース実行委員会
- ・八重山トレイルレース実行委員会
- ・東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- ・上野原秋山トレイルレース実行委員会
- ・陣馬高尾ムーンナイトトレイルレース実行委員会
- ・峰山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

山岳  
雑誌

# 岳人

山と人、  
時代をつなぐ  
「岳人」。



ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者一線を退いた往年の登山家まで、岳を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものになりたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。

## 年間購読がおすすりめです。

**購読割引** **送料無料** **限定品プレゼント**

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊 年間購読12冊  
**8,160円** → **7,480円**  
(税込8,612円) (税込8,078円)

1年間で600円  
1冊が無料



「岳人」2016年4月号

【特 集】山と写真

【好評連載】アリチョフ・ナンセン「グリーンランド 探検記」/石川直樹「まれびと」/高山重篤「山と海の皮違ひ」/岳人プロフィール

4月号  
3/15発売

※購読料は別紙にて  
★メンバーのウェブ  
サイト、本誌のメン  
ベルストアや書店  
にて購読中!

年間購読  
お申し込み方法

●ウェブサイト  
<http://www.gakujin.jp>

●お電話で (受付後にはお電話でお送りします)  
0120-982-682 / TEL 06-6838-6797  
※受付時間: 月曜～土曜 10時～18時

●全国のメンバーストアで  
<http://store.montbell.jp>

立ちどめられない保証。

**MS&AD**  
三井住友海上



三井住友海上の安心



[www.ms-ins.com](http://www.ms-ins.com)



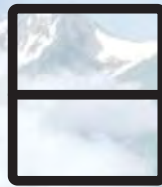
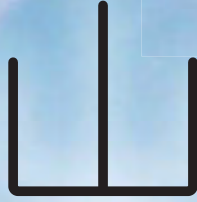
JMA

守ります。美しい日本の山。

祝

8月11日

(2016年より)



国民の祝日

山岳保険は

日本山岳協会 山岳共済会

<http://sangakukyousai.com>

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL:03-5958-3396 FAX:03-5958-3397

E-mail:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月～金 10:00～17:00(祝日除く)

Webからも申込みます